

飯能市観光ビジョン (第四期)



令和8年4月

はじめに	1
第1章 ビジョン策定の趣旨	2
1 飯能市観光ビジョン策定の経緯	2
2 飯能市観光ビジョンに基づく取組	2
1) 飯能市観光ビジョンに基づくこれまでの取組	2
2) 飯能市観光ビジョン(第三期)目標達成状況	3
3 ビジョン策定の目的	6
4 計画期間	7
第2章 飯能市における観光の現状と課題	8
1 観光の現状と今後の動向	8
1) 訪日旅行の状況と国の取組	8
2) 日本人の国内旅行の現状と国の取組	9
2 飯能市の観光の現状と課題	10
第3章 基本理念と目標	13
1 基本理念	13
2 目標と基本施策	13
1) 飯能市観光ビジョン(第四期)における5つの目標と基本施策	13
2) 推進体制	18

はじめに

本市は埼玉県の南西部に位置し、市域の約 75%が森林で覆われ、都心から約 50km 圏内でありながら豊かな自然に恵まれ、ハイキング(登山)やバーベキューなどのアウトドアレジャーを楽しめるスポットが豊富にあります。平成 17(2005)年 4 月 1 日には歴史的な背景や地域の特性を生かし、「森林文化都市」を宣言しています。また、西武池袋線で池袋まで約 40 分と都心からのアクセスも良好で、本市を訪れる方だけではなく、都心への通勤・通学にも便利な位置にあるといえます。

観光は、来訪者による地域の賑わいを生み出すとともに、宿泊業や飲食業、小売業、公共交通など幅広い消費を喚起する裾野の広い産業であり、本市でも多くの地域で魅力を高め産業の発展に繋げる取組を行っています。特に、本市におけるエコツーリズム¹の推進は、自然や歴史、文化などの観光資源(特に本市の重要政策課題である森林資源)の保全と活用にも資するものとなっています。

観光振興による市の認知度や注目度、イメージの向上は、市民の郷土愛の醸成、来訪者の増加による本市のファンや転入者の増加にも結び付くなど、産業の振興による経済効果のみならず、本市の持続可能なまちづくりに寄与するものと考えられます。

そうしたことから本観光ビジョンは、行政だけではなく、観光地域づくり法人(DMO)²(以下「DMO」)として観光庁に登録された一般社団法人奥むさし飯能観光協会(以下「観光協会」)を中心に、観光関連事業者のほか、農業、林業、商業、工業といった幅広い産業の事業者、そして多くの市民の参画による観光振興、観光によるまちづくりを推進するための指針として策定するものです。



飯能市イメージキャラクター夢馬(むーま)

¹エコツーリズム：自然環境や歴史・文化を体験し、学ぶとともに、地域の自然環境や歴史・文化の保全に責任を持つ観光のあり方で、本計画では自然環境の保全に配慮しながら、地域の創意工夫を生かしたエコツーリズムに関する総合的な枠組みを定めた「エコツーリズム推進法」により規定された「エコツーリズム推進基本方針」に基づき実施されているものを指す。

²観光地域づくり法人(DMO)：「Destination Management Organization(デスティネーション・マネージメント・オーガニゼーション)」の略で、「観光地域づくり法人」を指す。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。

第1章 ビジョン策定の趣旨

1 飯能市観光ビジョン策定の経緯

飯能市観光ビジョン策定以前の本市の観光は、自然、歴史、文化、イベント、グルメなど多様な観光資源を有している反面、それらの魅力が多種多様であるがゆえに、「飯能の観光」についての明確なイメージがつかみづらく、「観光地としてのイメージはどちらかという曖昧である」ことが、ひとつの課題でした。

このため、「本市の観光の方向性を示したビジョン」を策定し、協働型の観光によるまちづくりを推進することで、より魅力的な飯能市の観光【観光はんのう】を推進していくこととし、平成23(2011)年にそれまでの取組や地域資源を再確認するとともに、市内の観光関連の団体や民間企業等からの意見を踏まえ、「歩いて楽しむ観光」をコンセプトとした、飯能市観光ビジョン(第一期)を策定しました。

平成28(2016)年には、飯能市の地域資源のネットワーク化(都市回廊空間の形成)のほか、都心や海外の人々に向けた情報発信、メツツァとの連携やエコツーリズムの推進等を通して、観光関係者、市民、行政が一体となった新たな観光のまちづくりを進めるとともに、「イベントを中心とした観光」から「体験型・着地型観光」「産業としての観光」へのステップアップを目指した、飯能市観光ビジョン(第二期)を策定し、交流人口³の倍増による市の活性化や経済好循環などによる地方創生を推進しました。

令和5(2023)年には、それまでの飯能市観光ビジョン(第二期)で推進してきた視点に、新型コロナウイルス感染症の感染防止やオーバーツーリズム⁴対策といった「ポストコロナ時代に対応した観光スタイルの視点」を加えるとともに、「官民の役割分担の視点」に基づき、DMOである観光協会と行政との役割分担を明確にするため、飯能市観光ビジョン(第三期)を策定しました。

2 飯能市観光ビジョンに基づく取組

1) 飯能市観光ビジョンに基づくこれまでの取組

飯能市観光ビジョン(第一期)ではそのコンセプトである「歩いて楽しむ観光」の実現のため、ハイキング(登山)コースや観光公衆トイレなどの観光施設の整備、維持管理を行ってきたほか、飯能まつりなどのイベントの充実をはじめ、農林業や健康づくりと連携した各種事業の実施、飯能駅改札口横への観光案内所の設置や観光ツイッター(現 X)の開設など、観光施策の推進や情報発信の強化にも取り組んできました。また、エコツーリズムの先進地である本市においては、平成26(2014)年度にエコツーリズム推進全体構想の第2版の認定を受けたことを契機に、同年にエコツーリズムの所管を環

³交流人口：その地域を訪れる人々のこと。その地域に住んでいる人(定住人口又は居住人口)に対する概念である。その地域を訪れる目的としては、通勤・通学、買い物、文化鑑賞・創造、学習、習い事、スポーツ、観光、レジャー、など、特に内容を問わないのが一般的である。

⁴オーバーツーリズム：観光地やその観光地に暮らす住民の生活の質、あるいは訪れる旅行者の体験の質に対して、観光が過度に与えるネガティブな影響のこと。

境部門から観光部門に変更し、観光振興の大きなツールと位置づけています。

飯能市観光ビジョン(第二期)においては、飯能市観光ビジョン(第一期)における取組を検証し、本市の観光振興を更に進めていく上での課題を整理し、「生まれ変わります 観光はんのう」をキャッチフレーズに、それまでの「歩いて楽しむ観光」に加えて、交流人口480万人を目指して、「メッツァ・宮沢湖周辺」、「トーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園周辺」、「飯能河原・天覧山周辺」の3つの観光拠点を結ぶ都市回廊空間の回遊と、その人の流れを中心市街地、山間地域へ誘導するための施策を推進しました。

飯能市観光ビジョン(第三期)においては、「みんなでつくる観光はんのう」を目指す将来像として、ポストコロナ時代に対応した観光スタイルの構築と官民役割分担の視点を踏まえ、市民、観光客、事業者それぞれが飯能市の観光を通して深く関わり合うことで、みんなが好きになる観光地「観光はんのう」をつくることを推進しました。飯能河原においては、観光協会や周辺住民の方々、埼玉県など関係者と連携し、火気使用可能区域を指定し、ごみの回収を含めて有料化し、周辺住民の生活環境の改善に取り組むとともに地域の稼ぐ観光、観光客のマナーの向上に取り組みました。また、飯能アニメツーリズム実行委員会事務局及び飯能市エコツーリズム推進協議会事務局を観光協会へ移管するとともに、令和8(2026)年4月に飯能まつり協賛会事務局を移管するための準備を進めました。

2)飯能市観光ビジョン(第三期)目標達成状況

飯能市観光ビジョン(第三期)では、「みんなでつくる観光はんのう」を目指す将来像として、ポストコロナ時代に対応した観光スタイルの構築と官民役割分担の視点を踏まえ、市民、観光客、事業者それぞれが飯能市の観光を通して深く関わり合うことで、みんなが好きになる観光地「観光はんのう」をつくることとし5つの目標を掲げて推進しました。

【目標1】 交流人口480万人を目指します。(目標年度:令和7(2025)年度)

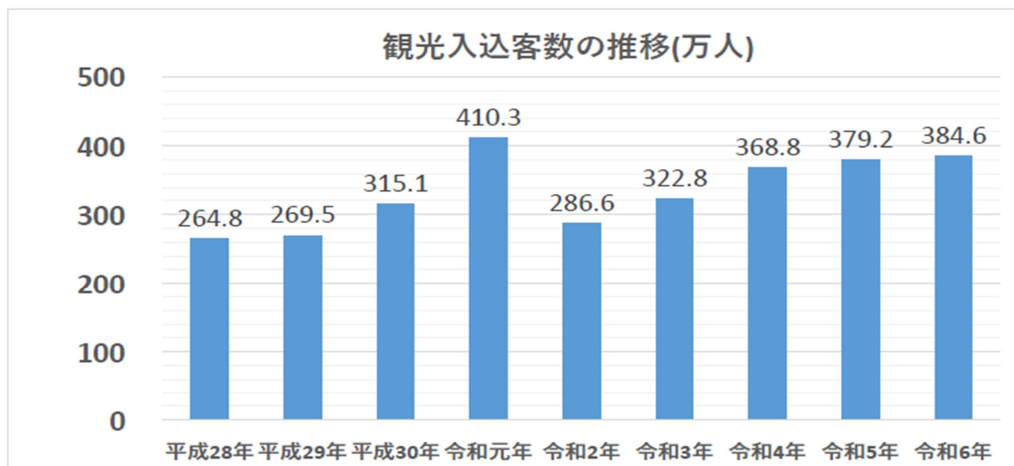
交流人口の指標となる観光入込客数⁵は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2(2020)年は約286万人となりましたが、その後徐々に回復し、令和6(2024)年には約384万人となりました。しかし、メッツァのオープンにより、各種マスメディア⁶への本市の露出が飛躍的に増加した令和元(2019)年の410万人には及ばない結果となりました。第5次飯能市総合振興計画⁷に基づき設定した交流人口480万人についても達成できず、今後の観光ビジョンにおいては実態に基づいた目標を設定する必要があります。

⁵観光入込客数：観光地点及び行祭事・イベントに訪れた人数を、観光地点の管理者・行祭事・イベントの実施者等の報告により調査したもの。

⁶マスメディア：マス・コミュニケーションの媒体。新聞・出版・放送・映画など。大衆媒体。大量伝達手段。

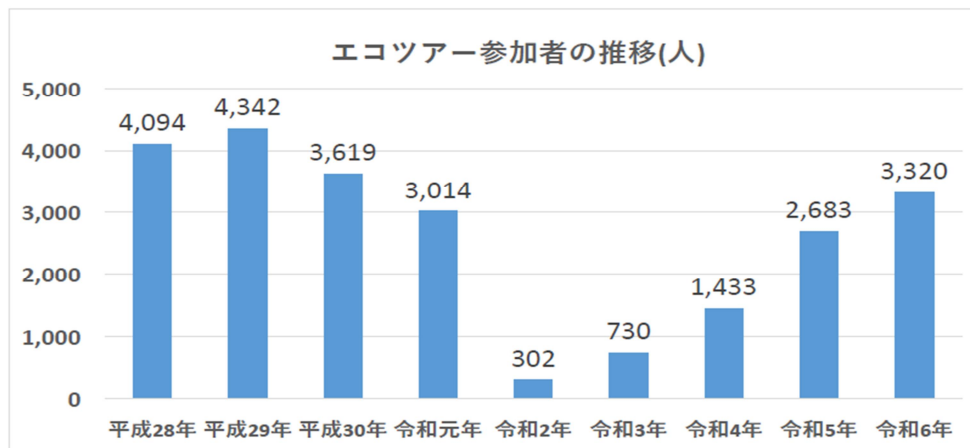
⁷飯能市総合振興計画：飯能市における今後のまちづくりの総合的な方針を示すもので、飯能市が策定するすべての関連計画の最上位計画として位置づけられている。

訪日外国人の誘客については、積極的なインバウンド⁸事業に取り組んでいる埼玉県や一般社団法人埼玉県物産観光協会、鉄道会社と連携し、飯能市の観光コンテンツの情報を発信しました。



【目標2】 豊富な資源を生かして多様なニーズに応えます。

エコツーリズムの推進では、里地里山の身近な自然や人々の生活文化などを資源としたエコツアーに加えて、飯能の自然が感じられる施設でのエコツアーとして、名栗カヌー工房やたいら栗園などで実施されていましたが、新たにノーラ名栗やメツツァ、キャンプ場などでも新たに実施されることにより、多様なツアープログラムが創出されました。



メツツァビレッジでのトウキョウサンショウウオの生態を学ぶエコツアーの様子



山間地域のキャンプ場でのムササビ観察のエコツアーの様子

⁸インバウンド：外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。

【目標3】地域の稼ぐ力を最大限に引き出します。

本市における観光振興による稼ぐ力を醸成するため、市から観光協会へ、令和6(2024)年4月に飯能アニメツーリズム実行委員会事務局を、令和7(2025)年4月に飯能市エコツーリズム推進協議会事務局をそれぞれ移管しました。また、令和8(2026)年4月に飯能まつり協賛会事務局を移管するための準備を進めました。観光協会がこれらの事業の事務局を担うことにより、稼ぐ観光・稼ぐ力の視点を持った施策が遂行されることが期待されます。

また、観光協会では令和5(2023)年度から飯能市観光アンケートを実施しており、他の観光客データと合わせて、分析に基づいたマーケティングに繋げる基盤ができたと考えられます。

【目標4】住む人来る人みんなが好きになる観光地を創ります。

都市回廊空間の一つである飯能河原では、コロナ禍に多くのバーベキュー客が訪れ、オーバーツーリズムの状態となり、近隣の市民に大きな不安を与えたため閉鎖する事態となりました。そのことから、飯能河原においては、観光協会や周辺住民の方々など関係者と連携し、埼玉県が実施する「水辺空間とことん活用プロジェクト⁹」を活用し、バーベキューなどで火気を使用できる区域を指定し、ごみの回収を含めて有料化することにより、周辺住民の生活環境、自然環境の保全に取り組むとともに地域の稼ぐ観光、観光客のマナーの向上の実現を推進しました。

また、市民と協力した景観整備やハイキング(登山)道の安全確保、自然環境の保全にも取り組み、市民の郷土愛の醸成にも取り組みました。



火気使用可能区域を指定し有料化によりごみの回収を実施した飯能河原の様子



地元の方の協力により景観整備が行われた棒ノ嶺山頂からの眺望

⁹水辺空間とことん活用プロジェクト：平成23年の河川敷地占用許可準則の一部の改正により、都市及び地域の再生等に資する目的での「営業活動を行う事業者等(民間事業者)」による河川敷地の利用が可能となったことによる埼玉県の制度。埼玉県では、市町村等の公的団体が占用許可を受け、民間事業者と施設使用契約を締結した上で、民間事業者が河川敷地を使用することとしている。

【目標5】 観光インフラに対する観光客の満足度の向上を図ります。

都市回廊空間の一つである飯能河原の上流部及び下流部の入間川沿いに、埼玉県が実施した「川の国埼玉 はつらつプロジェクト¹⁰」により遊歩道が整備され、観光客だけではなく市民も親しめる水辺の環境が新たに創出されました。

ハイキング(登山)道においては、関東ふれあいの道を中心に巡視を行い、豪雨等により損壊した際には埼玉県と連携し復旧対応しました。また近年、樹木が枯れることによる落枝、倒木等の事案が多数発生しており、ハイキング(登山)道での安全を確保するため、注意喚起をするとともに枯木の伐採や倒木の除去などの対応を行いました。



飯能河原上流部に整備された遊歩道(せせらぎ遊歩道)の様子



飯能河原下流部に整備された遊歩道(なかよしロード)の様子

3 ビジョン策定の目的

少子高齢化による人口減少が進む中、観光振興により交流人口・関係人口¹¹の増加を図ることは、多様な産業への波及効果が期待できるため、地域の活性化に欠かせないものとなっています。また、将来的な定住人口の増加に繋がることも期待されます。

近年の観光入込客数からは新型コロナウイルス感染症の影響から脱却したと読み取れますが、その間に旅のかたち、求める価値観が変化する等、旅行形態や観光客のニーズは多様化してきたといえます。

国では、令和5(2023)年3月に観光立国推進基本計画¹²を改定し、目標として「持続可能な観光」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」の3つをキーワードに、持続可能な観光地域づくり、インバウンドの回復、国内交流拡大の3つの戦略に取り組んでいます。

¹⁰川の国埼玉 はつらつプロジェクト：平成28(2016)年度から令和2(2020)年度まで市町村の地域振興の取組と連携した水辺空間の整備・拡充を行うため実施された埼玉県の事業。

¹¹関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す言葉。

¹²観光立国推進基本計画：観光を巡る近年の情勢の変化を踏まえ、観光立国推進基本法第10条の規定に基づき、観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、国民経済の発展、国民生活の安定向上及び国際相互理解の増進を図るための国の計画。

また、埼玉県では、令和4(2022)年3月に第3期埼玉県観光づくり基本計画¹³を策定し、「旅したくなる また来たくなる ずっと居たくなる埼玉」を基本理念に、観光客(旅したくなる人)はもとより、関係人口(また来たくなる人)や将来的な住民(ずっと居たくなる人)にも来訪していただけるよう、県民、観光事業者及び観光関連団体並びに市町村、県が一体となって、地域を活性化させ、埼玉県を魅力的にする観光づくりに取り組んでいます。

こうした中、本市においても、観光ニーズの多様化や観光を取り巻く環境の変化に対応し、観光分野の課題を踏まえ、国内外から人を呼び込み、消費を喚起させ、まちの賑わいを創出し、地域経済を活性化させ、新たな雇用の創出や将来的な定住へと繋げ、地域を持続的に発展させていくため、第6次飯能市総合振興計画に基づいた新しい飯能市観光ビジョンを策定し、観光施策を総合的かつ効果的に推進することとしました。

なお、観光消費額などの具体的な数値目標は、DMOである観光協会の「観光地域づくり法人形成・確立計画¹⁴」において設定するものとします。

4 計画期間

本ビジョンの計画期間は飯能市総合振興計画に基づいた計画とするため第6次飯能市総合振興計画前期基本計画と同期間の令和8(2026)年度から令和12(2030)年度までの5年間としています。

■ 計画期間

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	
第6次飯能市総合振興計画	基本構想 令和8年度～令和17年度 (10年間)										
	前期基本計画 令和8年度～令和12年度 (5年間)										
飯能市観光ビジョン	飯能市観光ビジョン (第四期) 令和8年度～令和12年度 (5年間)										

¹³埼玉県観光づくり基本計画：埼玉の観光を取り巻く状況を踏まえ、埼玉県観光づくり推進条例に基づき、市町村、観光事業者、観光関係団体及び県民と連携して観光づくりを推進するための埼玉県の計画。

¹⁴観光地域づくり法人形成・確立計画：DMOの登録・更新申請時に提出する「法人概要」及び「観光地経営戦略」、「財源計画」。

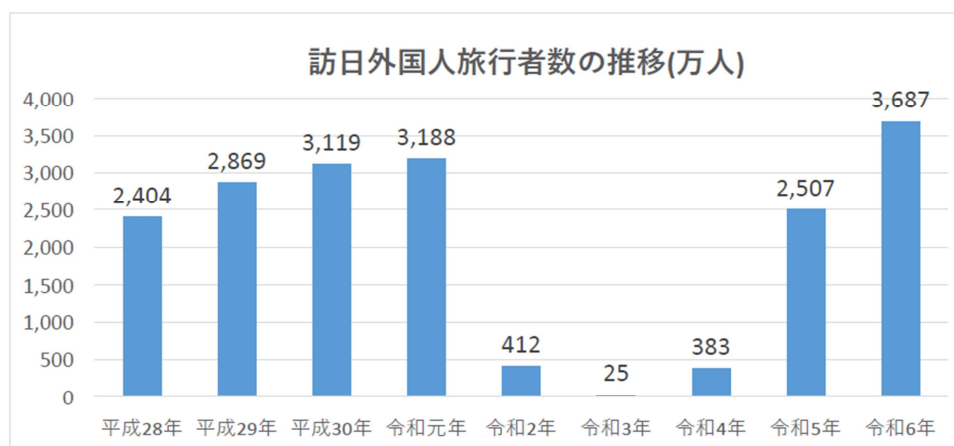
第2章 飯能市における観光の現状と課題

1 観光の現状と今後の動向

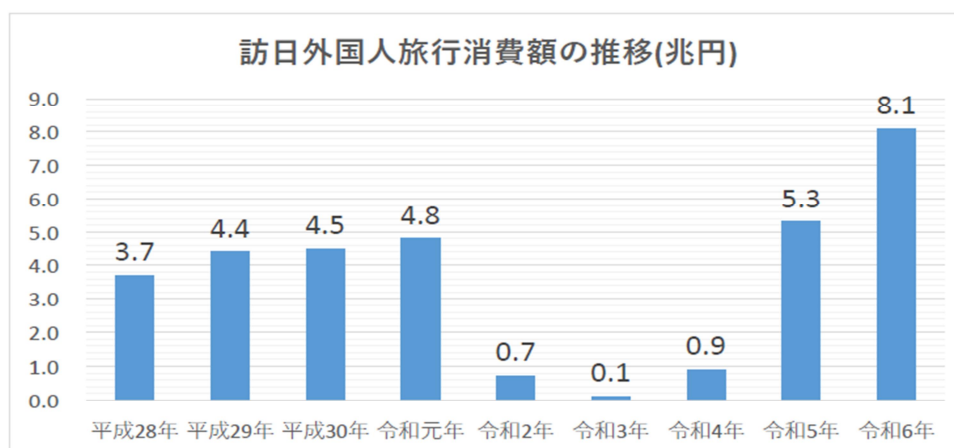
1) 訪日旅行の状況と国の取組

令和 7(2025)年版観光白書によると、訪日外国人旅行者数は、新型コロナウイルス感染症拡大からの影響後、令和 4(2022)年6月に外国人観光客の受入が再開し、同年 10 月の水際措置の大幅緩和等により徐々に回復しはじめ、令和 6(2024)年には、堅調な訪日需要や航空便の回復により、東アジアのみならず、東南アジアやヨーロッパ、米国、オーストラリア等の幅広い国・地域からの旅行者が増加し、年間で 3,687 万人(令和元(2019)年比 15.6%増)、訪日外国人旅行消費額は8兆 1,257 億円(令和元(2019)年比 68.8%増)と過去最高を記録しました。

現在、国では令和 12(2030)年に訪日外国人旅行者数を 6,000 万人、消費額 15 兆円を目標として、地方を中心としたインバウンド誘客を目指し、消費拡大に効果の高いコンテンツや地方誘客に効果の高いコンテンツの整備、高付加価値旅行者の誘致促進や戦略的な訪日プロモーションとともに、インバウンド受入環境の整備に取り組んでいます。



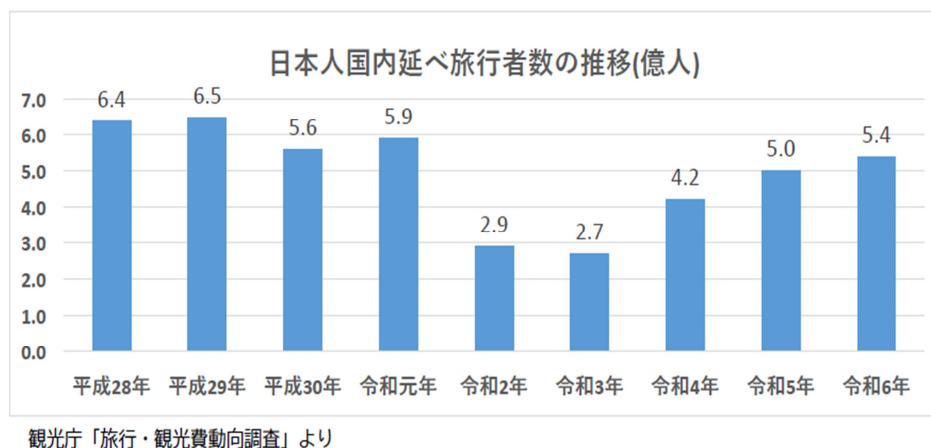
日本政府観光局(JNTO)資料に基づき観光庁作成



観光庁「インバウンド消費動向調査」より(令和2年~4年は試算値)

2)日本人の国内旅行の現状と国の取組

観光庁の旅行・観光消費動向調査によると、令和6(2024)年の日本人国内旅行消費額は約25兆円であり、国内旅行消費額全体(約34兆円)の7割超となっています。地方部(三大都市圏¹⁵以外)の延べ宿泊者数は日本人の割合が約9割であり、特に地方部の旅行需要は日本人が下支えています。旅行単価は物価上昇等により増加傾向にありますが、日本人国内延べ旅行者数や旅行経験率¹⁶は長期的に伸び悩み、今後は更に人口減少・少子高齢化が進む中、国内交流の拡大に一層取り組む必要があるとされています。



日本人の生活や旅行についての意識については、日本人の生活における仕事と余暇の位置づけを、公益財団法人日本生産性本部による令和5(2023)年調査結果からみると、「仕事よりも余暇の中に生きがいを求める」との回答が34.1%と平成26(2014)年の24.4%から増加傾向にあり、「仕事は要領よくかたづけて、できるだけ余暇を楽しむ」との回答も含めると全体の6割超となっていることから、仕事よりも余暇を重視する傾向が高まっています。また、時間が増えた場合にしたいこととして約6割の方が「旅行」と回答しています。他方で令和5(2023)年の有給休暇取得日数は12日となっています。

現在、国では国内交流拡大に向けて、消費拡大に効果の高いコンテンツや地方誘客に効果の高いコンテンツの整備、二地域居住の促進につながる第2のふるさとづくり¹⁷、ワーケーション¹⁸の推進、休暇を取得しやすい職場環境の整備や休暇取得の分散化の促進などの国内旅行需要の平準化の促進に取り組んでいます。

また、DMOを司令塔とした観光地域づくりの推進、観光人材の育成・確保も重要な施策として取り組んでいます。

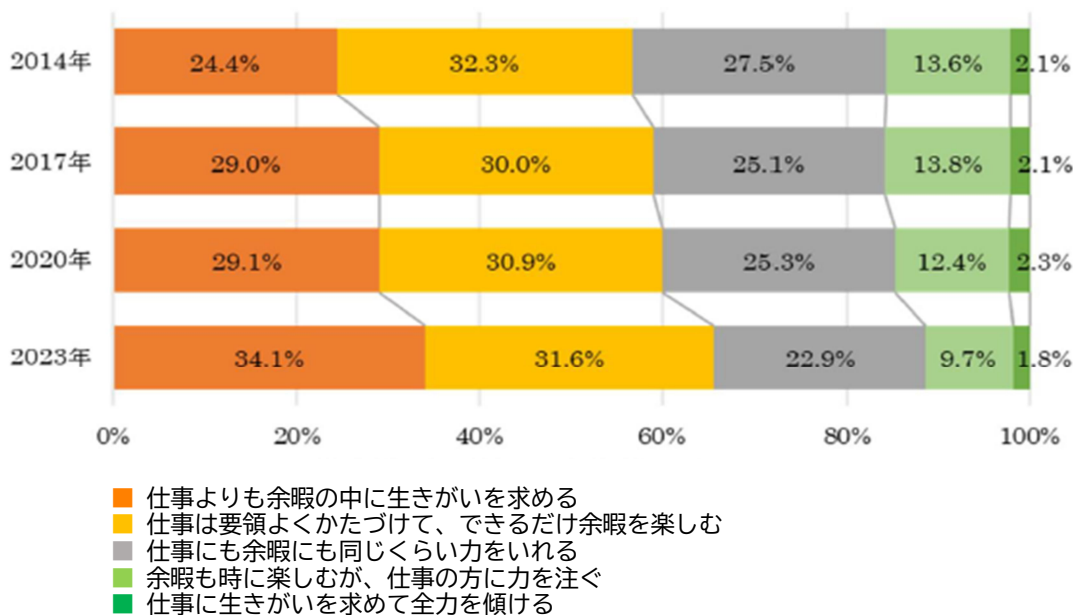
¹⁵三大都市圏：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、愛知県、大阪府、京都府及び兵庫県等の8都府県。

¹⁶旅行経験率：1年間に旅行を1回以上した人の、人口に占める割合。

¹⁷第2のふるさとづくり：「何度も地域に通う旅、帰る旅」という新しい旅のスタイル。

¹⁸ワーケーション：Work(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすこと。

仕事重視、余暇重視の割合の推移

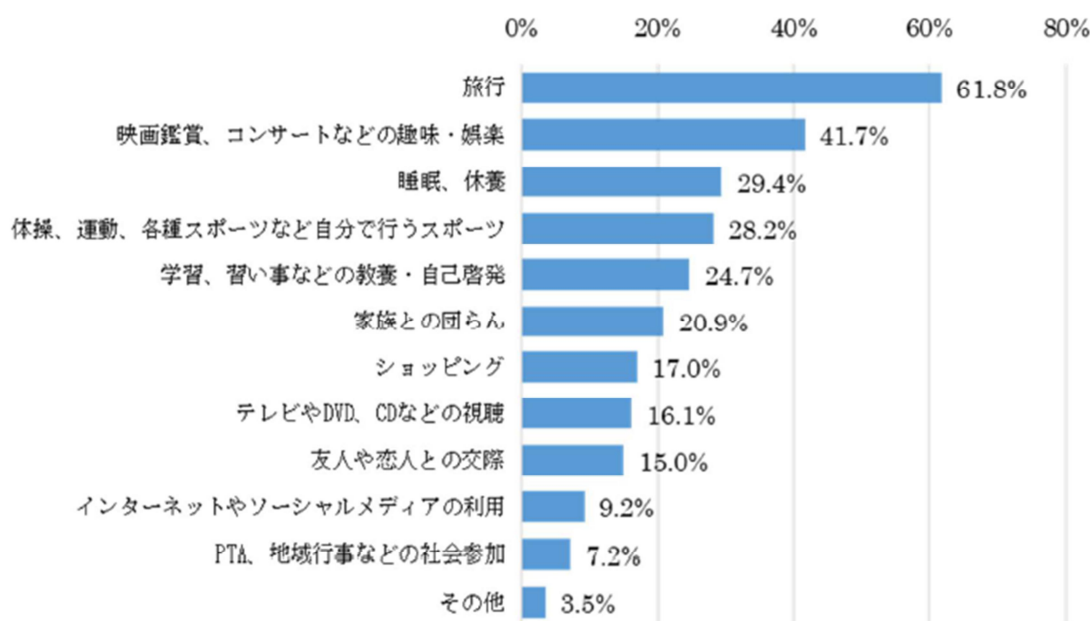


資料：公益財団法人日本生産性本部「レジャー白書 2024」に基づき観光庁作成

注1：全国15～79歳の約3,000人を対象とした調査結果による。

注2：「仕事」は勉強や家事を含む。

自由時間が増えた場合にしたいこと



資料：内閣府「国民生活に関する世論調査」（令和6年8月調査）に基づき観光庁作成。

注1：本調査は、全国18歳以上の日本国籍を有する者3,000人を対象に令和6年8月及び9月に郵送で実施したもの。

2 飯能市の観光の現状と課題

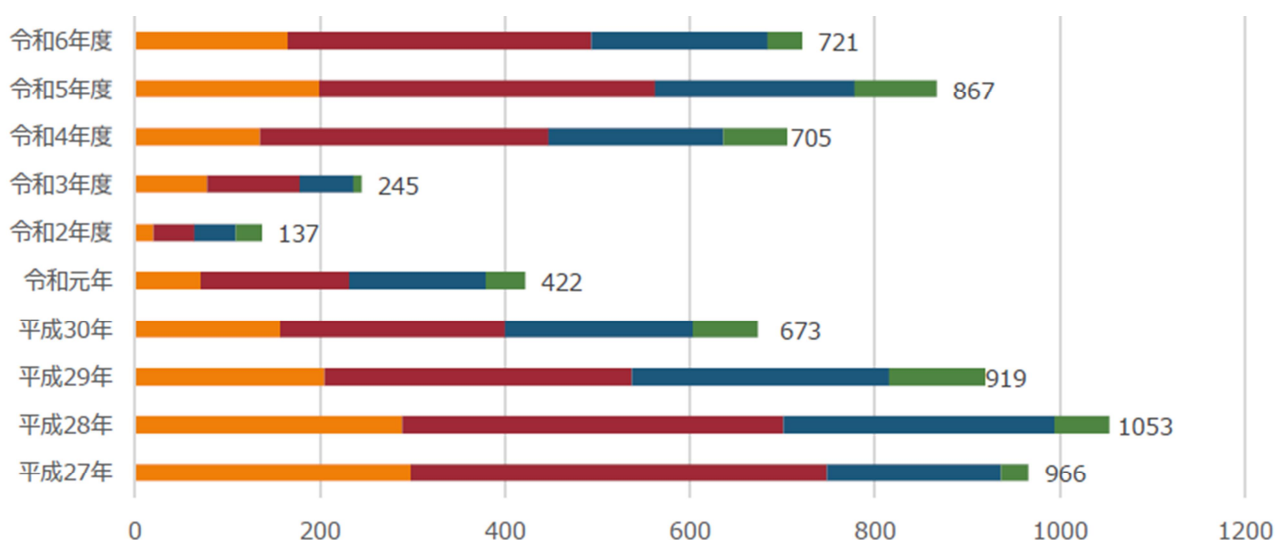
本市は市域の75%を占める森林や入間川、高麗川をはじめとした河川、湖など魅力ある自然資源に恵まれ、都心からのアクセスの良さもあり、登山やハイキング、川遊びやバーベキュー、サイクリングなどで多くの方が訪れています。また、平成30(2018)年11月のメッツァビレッジ、平成31(2019)年3月のムーミンバレーパークのグランドオープンにより多くの観光客が訪れるとともに、

平成 9(1997)年の開園以来、多くのファンを魅了しているトーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園、令和 2(2020)年に北欧をテーマにしたグランピングやバーベキュー等の施設ノーラ名栗が名栗地区にオープンするなど「北欧・フィンランドとの親和性」のある本市の魅力が大きく注目されています。この他にも本市では、平成 16(2004)年から取り組んでいるエコツーリズム、多数のゴルフ場の立地、本市を舞台とした漫画・アニメ、グルメなど多種多様な観光コンテンツを有しており、令和 6(2024)年の観光入込客数は約 384 万人となっています。

観光協会が実施した令和 6(2024)年の飯能市観光アンケートによると、来訪者の居住地の多くは近隣のアクセスの良い東京都及び埼玉県となっています。来訪者の約 8 割が日帰りとなっていることもその裏付けとなっていると考えられます。同様の結果は、近年のエコツアー参加者へのアンケート結果からも裏付けられ、飯能市を含めた埼玉県及び東京都からの参加者が約 9 割となっています。

飯能エコツアー参加者の居住地(人) ■飯能市内 ■埼玉県内 ■東京都内 ■その他

※飯能エコツアー参加者アンケートより



同様に令和 6(2024)年の飯能市観光アンケートによると、消費金額の平均は、日帰り客が 7,106 円、宿泊客が 19,091 円で、日帰り客の 72%が消費金額 10,000 円未満、宿泊客の半数が 20,000 円以上を消費している結果となっています。県内及び近隣都県からのアクセスが良く、豊かな自然環境などの観光資源を有する本市ですが、消費額が少ない要因としては、日帰り客が多く、大型バスによるツアー旅行などでの宿泊客が少ないことが考えられます。

市民の意識としては、令和 6(2024)年 7~8 月に実施した「飯能市まちづくりに関するアンケート調査結果」の「歴史・文化・産業・環境等で自慢できるもの、誇れるもの(自由記述設問)」の回答として、山や川、森林や水辺といった「自然の豊かさ」及び「飯能の自然と関連した施設」が多く挙げられていました。

一方で本市の観光振興では、観光公衆トイレなどの市有施設の老朽化への対応、観光客や観光施設とその周辺で生活する市民の生活環境との調和、訪日外国人観光客及び在日外国人の受入体制

の整備が課題となっています。また、樹木が枯れることによる落枝・倒木への対応、樹木の成長による自然景観の悪化への対応、豪雨等によるハイキング(登山)道の損傷への対応、ツキノワグマなどの動物の出没など、豊かな自然を観光資源として多くの観光客が訪れる観光地ならではの課題もあります。

山間地域では、少子高齢化や若者の流出により人口減少が進む一方で、山々にはハイキング(登山)客が、河川にはキャンプやバーベキューなど水辺のレジャーを目的に多くの観光客が訪れています。その中には、路線バス・鉄道などの公共交通機関を利用する方も多く、今後も観光客や山間地域で生活する市民の足として公共交通機関が不可欠であると考えられるため、観光振興により公共交通機関の利用促進を啓発することが重要となります。自然に親しみ楽しむことができるレジャー施設や宿泊施設、寺社仏閣も多く立地しており、観光業や飲食業が地域の重要な産業ともなっています。

コロナ禍以降、市内でもイベントが再開され、市内に賑わいを創出していますが、イベントには協賛金や補助金を運営の主たる財源として開催されているものが見られます。近年、物価や人件費の高騰により開催に係る支出が増加する一方で、協賛金や補助金による収入が伸び悩み又は減少傾向にあるイベントもあります。そのため、開催の可否や内容の見直し、新たな財源の確保の必要に迫られているイベントもあります。

このように本市では、多くの観光資源を有し、多くの方が訪れている一方で、多くの課題も抱えている現状があります。



例年 11 月に開催される飯能まつりの様子



樹木の成長により自然景観の悪化が進んでいる
(関八州見晴台)

第3章 基本理念と目標

1 基本理念

『暮らす人、訪れる人、誰もが愛着を持てる観光のまち飯能』

観光振興により地域が賑わい、経済が潤い、発展し、市民、事業者等が地域に愛着を持った観光地づくりを推進します。

2 目標と基本施策

基本理念及び第6次飯能市総合振興計画に基づき、これまでの飯能市観光ビジョンでの取組や第2章「飯能市における観光の現状と課題」を踏まえて、観光地づくりのための5つの目標を定め、施策を展開していきます。

第6次飯能市総合振興計画前期基本計画における評価指標

評価指標	指標の説明	基準値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
観光入込客数	国の共通基準に基づく観光地点等入込客数(年間)	384万人	400万人
エコツアー参加者数	エコツアー参加者数(年間)	3,320人	4,000人

1) 飯能市観光ビジョン(第四期)における5つの目標と基本施策

【目標1】 飯能らしさに磨きをかけた観光誘客により交流人口の増加を図ります。

第6次飯能市総合振興計画前期基本計画の評価指標である観光入込客数400万人(令和12(2030)年度)を目指して、飯能市の固有の観光資源を生かした観光誘客施策を展開します。

基本施策	基本施策の内容
①森林・河川など豊かな自然、歴史・文化を生かした施策の推進	本市の豊かな森林や河川を生かした観光誘客を推進するため、豊かな自然に親しみ、楽しめる施設等の情報を発信するとともに、豊かな自然環境や生活文化、歴史・伝統文化を活用したエコツアーを充実させ、市内外の多く方が本市への関心を深めるよう取り組みます。
②民間事業者や県・近隣自治体との連携による外国人観光客の誘	本市にはメッツァやトーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園、寺社仏閣などを中心に外国人観光客が訪れています。効果的に本市の情報を発信するため、民間事業者や埼玉県、近隣自治体と連携して、地域の特色を生かした観光情報をSNS等による情報発信やインフルエンサー

客の推進	<p>の活用にも力を入れ外国人観光客の誘客に取り組みます。</p> <p>訪れる外国人観光客が快適に観光できるよう、多言語対応の観光情報サイトへの情報掲載や回遊ルート等の紹介を推進します。また、民間事業者等と連携し周遊プランを企画し、自然、文化、宿泊施設を組み合わせた魅力ある体験型観光を企画します。</p>
③観光関連事業者等との連携強化	<p>市内の観光・レジャー施設事業者や宿泊事業者をはじめ、公共交通機関、商工業、農林業、大学など多様な事業者との連携により観光客の受入体制や観光振興を推進する体制を強化します。また、埼玉県や埼玉県西部地域まちづくり協議会構成市をはじめとした自治体等との広域連携を強化します。</p>
④アニメ・グルメなどを活用したコンテンツツーリズムの推進	<p>本市の豊かな自然環境が描かれている漫画・アニメ「ヤマノススメ」などの舞台巡りによる観光施策を引き続き推進します。市内のモデルとなった場所を紹介するガイドマップの発行や回遊を促すイベントを実施します。また、うどんなどの郷土料理、地元食材を活用した料理などグルメをコンテンツとした情報も積極的に発信し、アニメとグルメの相乗効果で地域への誘客を促進します。</p>
⑤観光客データを活用した誘客の推進	<p>観光客データを分析し、効果的な情報発信を推進します。SNSやウェブサイトを活用した情報発信を行うとともに、観光客の年齢層や居住地、興味関心を基に、効果的に広告を配信します。また、市内の人気スポットやイベントを生かし、季節やトレンドに応じた情報を迅速に発信し、本市を訪れるリピーターの獲得を目指します。</p>

【目標2】魅力的で体験価値のある飯能エコツアーを実施します。

第6次飯能市総合振興計画前期基本計画の評価指標であるエコツアー参加者数4,000人(令和12(2030)年度)に向けて、「人と人とのふれあい」と「体験」を重視した、「地域の人から地域の言葉で地域を案内するツアー」を飯能市エコツーリズム推進全体構想に基づき引き続き推進します。

基本施策	基本施策の内容
①豊かな地域資源・地域特性を生かしたプログラムの充実と人材育成	<p>本市の豊かな自然環境や生活文化、歴史・伝統文化を生かした飯能独自の魅力的なエコツーリズムを引き続き推進します。同時に地域住民や地元事業者をエコツアーの担い手として育成するとともに、既存のガイドの知識や安全管理のスキルアップを図るため研修を実施します。地域の新たな観光資源を発掘するため情報収集にも努め、市内外の参加者が学び楽しめる新たなエコツアーを創出します。</p>
②地域経済の活性化に繋がるエコツアーの創出	<p>エコツーリズムを地域経済活性化に繋げるため、引き続き、地元産業と深く連携したエコツアープログラムの充実や宿泊型エコツアーを企画するとともに、新たな分野の事業者・団体などと連携したエコツアー</p>

	<p>の実施にも取り組みます。</p> <p>旅行会社のツアー旅行へのエコツアー体験の組み込みや、外国人観光客向けのエコツアーを企画し、新たな参加者の掘り起こしにも取り組みます。</p>
③自然環境や歴史、生活文化の保全と継承	<p>エコツーリズムの推進により、自然環境や地域特有の歴史・生活文化を保全しつつ、それらの魅力を観光資源として活用し、地域経済の活性化と環境保全の両立を図ります。</p> <p>地域コミュニティによる生活文化の継承に繋がるよう地元住民と連携したエコツアーを実施し、参加者に地域の価値を体験してもらい、未来世代へと繋げる取組を進めます。</p>
④参加者データを活用した誘客の推進	<p>エコツーリズムの推進に向け、参加者アンケートの結果データを活用し、参加者の年齢層や居住地、リピート状況等を分析し、需要のあるエコツアーの実施や、効果的な情報発信により参加者の増加に取り組みます。情報発信は、チラシやホームページ、SNS、メール配信の内容を充実させるとともに、SNSのフォロワーやメール配信の登録者の増加に取り組みます。</p>

【目標3】 地域経済の発展に繋がる施策を推進します。

DMOである観光協会を中核に、データ分析に基づいたマーケティングによる、地域の稼ぐ力を最大限に引き出す施策に取り組み、地域経済を好循環に導きます。

基本施策	基本施策の内容
①観光協会との連携による地域経済に貢献する観光の推進	<p>DMOである観光協会と市が連携し、地域経済発展に資する観光施策を推進します。飯能市の強みである豊かな自然と都心からのアクセスの良さを生かし、地元観光事業者をはじめ、様々な産業と連携した観光プランを開発しプロモーションに努め、来訪者数の増加を目指します。来訪者の属性や観光消費額を調査し施策の改善を重ね、持続可能な地域経済の発展に繋がります。</p>
②都市回廊空間と中心市街地、そして山間地域との相互の観光客の誘導	<p>都市回廊空間と中心市街地、そして山間地域との相互の観光客の回遊を促し、市全域での観光振興による産業の維持・発展に取り組みます。都市回廊空間及び中心市街地の観光拠点において、山間地域の自然・文化体験施設や観光資源などの観光情報の発信を強化するとともに、来訪者や市民に市内全域の回遊を促すイベントやエコツアーを実施することにより、産業の維持・発展、経済効果に繋がります。</p>
③観光客の公共交通機関の利用促進	<p>路線バスや鉄道、タクシーなどの公共交通機関は、市民が移動する際の生活の足となっているとともに、訪れる観光客にとっても重要な移動手段となっています。今後も引き続きこれらの移動手段を維持するため、ハイキング(登山)客などの観光客に対して公共交通機関を利用した</p>

	モデルルートの紹介や公共交通機関と連携した回遊を促進した事業、エコツアーを実施し、公共交通機関の利用促進に取り組みます。
--	--

【目標4】 市民生活との調和を図り、市民が愛着と誇りを持てる観光地づくりを推進します。

観光客と市民がともに楽しみ、交流の機会を創出するなど、すべての人に愛され、市民が誇れる観光地を目指します。

基本施策	基本施策の内容
①市民が参画する観光地づくりによる郷土愛の醸成	<p>市民生活との調和を図り、市民が参画する観光地づくりを推進するため、市民自らが観光資源の育成や保全に携わることを支援します。観光協会や飯能商工会議所と連携し、地元特産品や市民が主体的に開催するイベントや祭りの情報を積極的に情報発信するなど支援に取り組みます。</p> <p>地域住民や地元事業者がガイドを務め、自然環境や生活文化の保全にも取り組んでいるエコツーリズムを推進し、住民と観光客がともに飯能市に愛着を持ち、地域の活性化に繋がるよう取り組みます。エコツーリズムを通じた学校教育や地域学習により、飯能市の自然や歴史・文化の魅力を次世代へ伝えるとともに、観光振興による市民の郷土愛の醸成を目指します。</p>
②住民の生活環境と調和のとれた観光の推進	<p>市民生活と調和した観光地づくりを推進するため、地域住民の声を聞きながら観光振興に取り組みます。観光客による交通環境負荷の軽減や観光地へのアクセスを向上させるため、住宅街などでの騒音・渋滞防止や車両の乗り入れ回避を促すとともに、来訪者の駐車場の確保などについて研究し、まちなかの交通混雑の緩和に取り組みます。</p>

【目標5】 誰もが安心して楽しめる観光地づくりを推進します。

観光客にとって快適で、充実感、満足感、安心感が得られる旅となるよう、観光インフラの整備・維持管理をするとともに安全確保に努め、市民も日常生活で楽しめる環境整備に取り組みます。

基本施策	基本施策の内容
①安心して楽しめる観光施設の整備・維持管理、環境整備	<p>快適で安心して観光を楽しめる環境整備を推進します。観光客の満足度を向上させるため、清潔で使いやすい観光公衆トイレで観光客を迎えられるように、定期的な清掃や設備の修繕、維持管理を努めます。市所有の観光施設については飯能市公共施設等総合管理計画¹⁹に基づき修繕</p>

¹⁹飯能市公共施設等総合管理計画：飯能市の公共施設等が担う必要性の高い機能を確保しつつ、財政状況の悪化を回避して、公共施設等の全体最適化と持続可能な財政運営の両立を目指すため、公共施設等を対象に、保有状況を把握・分析し、維持更新費用の見込みを明らかにしつつ、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための基本的な方針を整理した計画。

	<p>等の維持管理費に鑑み、需要の減少や老朽化が進んでいる観光公衆トイレ等の統廃合や改修などを進めます。</p> <p>国内外の観光客が安心して市内を回遊できるよう、観光案内板や観光施設の案内を充実させ、利便性の向上を図ります。</p>
②安心・安全なハイキング(登山)道の維持管理	<p>豊かな自然を生かしたハイキング(登山)を安心して楽しめる環境づくりを推進します。市内各地のハイキング(登山)道の点検・補修を定期的に行い、安全性の向上を図ります。また、観光客が安心・安全に自然を満喫できるよう、わかりやすい道標や案内板、注意喚起看板の維持管理を行います。</p>
③多言語化による外国人観光客の受入体制の整備	<p>外国人観光客が安心して訪れ、地域の魅力を堪能できる環境整備を進めます。観光案内板や地図、施設の情報を多言語で表記し、誰でもわかりやすい方法で情報を提供します。また、主要な観光拠点での外国語対応や、観光パンフレットのデジタル化など、外国人観光客が安心して、自然や文化を楽しめる環境を整備します。</p>
④自然や歴史・文化などの観光資源の保全	<p>本市の自然や歴史・文化を次世代に継承し、観光振興を図るため、保全に配慮した観光振興を推進します。観光協会や飯能市エコツーリズム推進協議会などと連携し、森林や河川などの自然環境や生活文化、歴史・伝統文化の保全に向けた啓発を行います。</p>
⑤自然環境の変化に対応した環境保全と良好な自然景観の推進	<p>本市の豊かな自然を生かした観光地づくりを推進するため、里山や森林保全の重要性について、観光協会や飯能市エコツーリズム推進協議会、林業関係者などと協力し啓発するとともに、ハイキング(登山)道や川沿いの遊歩道を活用し、エコツアーなどの環境教育に取り組みます。自然環境を保全しながら、魅力的な自然景観の維持にも各関係部署及び関係者等の協力を得て取り組みます。</p> <p>ツキノワグマなどの動物の出没に対して、観光客への対策の啓発や目撃情報の提供に取り組みます。</p>

2) 推進体制

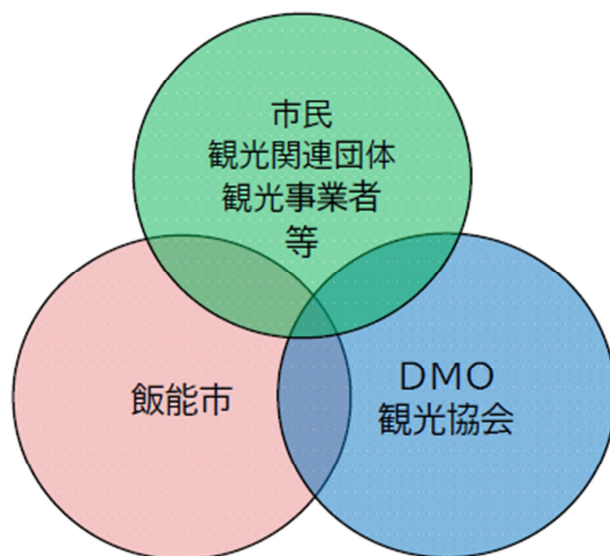
本ビジョンの推進に当たっては、市及び観光協会を中心に、市民・観光関連団体・観光事業者等が連携を図り、「暮らす人、訪れる人、誰もが愛着を持てる観光のまち飯能」の実現を目指し、持続可能な観光地域づくりに向けて取り組むことが重要となります。

市は、各種事業の実施主体と連携し、積極的なプロモーションなどを展開、観光資源となる地域の資源を磨き上げ、観光公衆トイレやハイキング(登山)道などの観光インフラの維持管理を行うとともに、国や埼玉県、近隣自治体などとの連携を強化するほか、市を挙げて本ビジョンを推進するため関係部署との総合的な調整を図ります。

観光協会は、観光地域づくり法人形成・確立計画に基づき、観光関連団体、観光事業者とともに、具体的な取組の実施主体としての役割を担い、新たなサービスや体験ツアー等の開発や提供、観光客への積極的な情報発信などにより、交流人口の増加や地域経済の活性化に繋がる取組を推進します。

また、市民は、飯能市の魅力を支える主体として、地域の自然や歴史、文化等の保全・継承に携わり、本市の魅力的な観光資源への理解を深め、愛着を持ち、市民自らが本市の魅力を紹介、情報発信できるように努めます。

観光客に対しておもてなしの心を持ってお迎えし、飯能ファンを増やします。



市及び観光協会を中心に、市民・観光関連団体・観光事業者等が連携を図り、持続可能な観光地域づくりに向けて取り組みます。



水 × 緑 × 人の出会い

森林文化都市

飯能市

飯能市環境経済部観光課